

第1回安定・効率輸送協議会<石油化学製品部会>
議事概要

・日 時:平成30年2月26日(月) 10:30~12:00

・場 所:国土交通省低層棟1階共用会議室1

- 今日の内航海運において、船舶の高齢化や、船員の高齢化による将来に向けた船員の確保・育成などは速やかに対応すべき課題である。
- ケミカル船やタンカー船への乗組みが敬遠される原因はいったいどこにあるのかをもっと真剣に考えていかなければ、現在、ケミカル船やタンカー船に乗り組んで業務に励んでくれている船員が、今後も船員としてやりがいをもって乗り組んでくれるのかどうかかわからないということにもなりかねない。これらの対応に向けた議論を深めていくことなども考えてみるのも良いのではないかと。
- 航空機であれば、運航、燃料供給、室内クリーニング等々はそれぞれ専属の者が行っているが、ケミカル船では全て船員の手で行われているのが現状。このようなケミカル船をとりまく課題を解消していくには、例えば、運航の稼働率は下がるが、ゆとりを持った作業時間の付与等、荷主企業側の協力も得ながら労働環境の改善に着手する等を検討してみるのも良いのではないかと。
- 2つの高齢化等の課題の解消を考えていく上で、船員の作業の実態や船舶・船員の需給の実態、ケミカル船員の供給源の状況等、定量的・客観的な情報が必要となってくるのではないかと。そうした情報を踏まえ、本質的な要因の分析にまで踏み込んで議論を進めていかなければ道筋は見えてこないと思われるし、そうした議論の過程で、例えば、協調的な配船のあり方などにまで踏み込めることができるのかといった発展的な議論などにもつなげていくことができるのではないかと。
- 特殊タンク船は、小型の199総トンクラスの船舶が大半を占めているが、それらに乗り組む船員のほとんどが家族船員等に支えられている現状がある。将来的に、少子化等による後継者不足が懸念される中、船舶の大型化の必要性等に関し、例えば、荷主企業側の港湾設備等の状況改善と併せて検討を行っていくことなどを考えてみるのも良いのではないかと。
- ケミカル船の貨物は危険物であり、安定輸送のみならず、安全輸送が重要になってくる。安定・安全輸送を確保しつつ、将来的な生産性向上に繋げていくにあたり、海上と陸上の接点である荷役作業における課題解消の視点が必要なのではないかと。例えば、陸上側荷役設備の老朽化・陳腐化、陸上支援のあり方、荷主企業側の支援のあり方、行政の施策のあり方等々、短期的・中長期的な取組スケジュールに整理した上で議論を進めていくことなどを考えてみるのも良いのではないかと。
- 表彰制度を新たに創設するのであれば、受賞した者に何らかのメリットがあるような工夫を考えてみるのも良いのではないかと。
- 様々な課題に対応すべく、多層的な視点から分析を行い、海事行政の中で取り組むべきもの、協議会・部会の枠組みの中で取り組むべきもの等々、課題の深掘りを踏まえた場合分けを図りながら、次回以降の検討につなげてまいりたい。